

大阪インターナショナルチャーチ

2013/6/23

ジョセフ・トッティス牧師

ヤコブ4:1-17

=====
先週、私たちの話す言葉は思った以上に影響力があることを学びました。言葉は人を生かすことも打ちのめすこともできます。縛ることも自由にすることもできます。また、主が偽りの証言や嘘、陰口、噂話をどれほど憎まれるかという話もしました。それ以上に主は、兄弟の間に争いを引き起こすことを忌み嫌われます（箴言6:16）。

なぜ主はこれらのことを憎まれるのでしょうか。こういったものによって、キリストのからだである私たちがばらばらになるからです。私たちは争いを引き起こすのではなく、一致をもたらす者となるべきです。使徒パウロの言葉に、神のみこころが表されています。

ピリピ2:1 ¶ こういうわけですから、もしキリストにあつて励ましがあ、愛の慰めがあり、御霊の交わりがあり、愛情とあわれみがあるなら、

2:2 私の喜びが満たされるように、あなたがたは一致を保ち、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、志を一つにしてください。

2:3 何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。

2:4 自分のことだけでなく、他の人のことも顧みなさい。

2:5 あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。

これが主のお考えです。私達も同じように考えているでしょうか。

問題の核心は舌を制御することではありません。誰にも舌は制御できません。雑草は根から抜かなければなりません。そうでないとまた生えてきます。舌も同じです。舌も雑草と同じで、問題の根本部分を処理しなければなりません。イエスは、嘘という問題の根本についてこうおっしゃいました。

ルカ6:45 「良い人は、その心の良い倉から良い物を出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を出します。なぜなら人の口は、心に満ちているものを話すからです。」

舌を制御するとか唇をかむという話ではありません。根本の問題は、偽りに満ちた歪んだ心なのです。エレミヤはこう言います。

エレミヤ17:9 「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。」

問題の根本にあるのは、自分本位で罪深い私たちの心の欲望です。

ヤコブ4:1a ¶ 何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。

私たちは問題の原因が自分以外のものにあると考えがちです。この人が悪い、あの人が悪いと。しかし、ヤコブはこう言います。

ヤコブ4:1b あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。

これまで何度も言いましたが、誰かを指差すと、3本の指がこちらをむいているのです。ヤコブは言います。戦いや争いは自分自身から出たものである、私たちの「からだの中で戦う欲望」が原因である、と。問題の根は私たちのうちにあるのです。

パウロも、私たちの内側に起こる戦いについて語ります。神の律法に従って良い行いをしたいと望む内なる聖霊と、自分のことしか考えない悪い肉の思いとの戦いです。

ローマ 7:22 すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいのに、

ローマ 7:23 私のからだの中には異なった律法があつて、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているのを見いだすのです。

私たちの肉は、自分自身の喜ぶことを常に求め、私たちを罪の支配下にとどめようとして、御霊に戦いをいどみます。

私たちがその肉の思いに屈服すると、ついにはそれが互いの間の戦いや争いとなって現れるというわけです。ヤコブはこう続けます。

ヤコブ 4:2a あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをします。うらやんでも手に入れることができないと、争ったり、戦ったりするのです。

ヤコブはここで、ほしがる、人殺し、うらやむ、といった過激な言葉を使っています。それはすべてどこで生まれるのでしょうか。私たちの心の中です。マタイ5章の山上の説教でイエスが教えられたとおりです。

小さな子が自分の思い通りにならなくて、泣いて駄々をこねているのを見たことがありますか。それは何をしているのでしょうか。戦ったり争ったりしているのです。これが私たちの生まれつきの性質です。

ヤコブ 4:2b あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。

「ちゃんと願っています。あのこと、このことについて毎日願っています。神様はどうして私の祈りに答えてくださらないのですか」と思いますか。

親も子どものおねだりするものをすべて与えたりしません。どうしてでしょう。それよりもっと良いものを用意しているからかもしれませんし、必要ないからかもしれません。または、子どもにとって良くないものだからという場合もあるでしょう。

自分勝手な肉の思いで生き、常に戦ったり争ったりしている人について、ヤコブはこう言います。

ヤコブ 4:3 願っても受けられないのは、自分の快樂のために使おうとして、悪い動機で願うからです。

この「使おう」という単語の意味は；
無駄にすること、浪費すること、使い尽くすこと

放蕩息子のたとえ話でイエスが使われたのと同じ単語です。

ルカ 15:13 それから、幾日もたたぬうちに、弟は、何もかもまとめて遠い国に旅立った。そして、そこで放蕩して湯水のように財産を使ってしまった。

私たちが願うものを神からいただけないのは、多くの場合、心の動機が間違っているからです。罪深い欲望が満たされるように願うのではなく、私たちの人生に備えられた神のみこころが成されるよう祈るべきです。

願い求めたものを神が与えてくださらないのは、その人のためにならないことを神がご存じだからという場合もあります。

私たちは神のお約束を覚えていなければなりません。そして、神が与えてくださるものに感謝し満足することが大切です。

1テモテ 6:8 衣食があれば、それで満足すべきです。

私たちの望むとおりに祈りに応える義務は神にありません。ヤコブの言ったことを改めて見てみましょう。

ヤコブ 4:3 願っても受けられないのは、自分の快樂のために使おうとして、悪い動機で願うからです。

自分の楽しみを増すために祈るなら、それは悪い動機で願っていることです。祈りによって、私たちの願いに神を従わせるのではなく、善なる神のみこころに私たちの人生を従わせるのです。けれども私たちは、願いを叶えてもらう方法として祈りを捉えがちです。

祈りの目的を勘違いしてしまうのです。祈りの目的は自分が何かを得ることではありません。この世で自分の願いを実現するためではないのです。むしろ、神のみこころに私たち自身が賛同し、天にあるように地にもみこころが行われるためです。どこかで聞いたことのあるセリフでしょう。

弟子たちがイエスに祈り方を教えてくださいと言った個所を覚えていますか。いわゆる「主の祈り」で、イエスはこう切り出されました。

マタイ 6:9 だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。
マタイ 6:10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。

「みこころが…行われますように」これはもちろん天の父のみこころを指しています。

ですから、祈りの中心は私たちの願いではありません。神の完全なみこころがなされることが焦点です。では、自分の願いを主に求めてはいけないということでしょうか。もちろん、違います。

ヤコブ 4:2b あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。

願うものを主に求めるのはよいことです。
イエスはおっしゃいました。

ヨハネ 14:13 またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。父が子によって栄光をお受けになるためです。

もしそれがみこころに沿っているなら、神は確かにそれを与えてくださるでしょう。

だから何でも自分の欲しいものは主にお願いしてもよいのです。ただし、イエスが教えられた祈り方を忘れないようにしましょう。

イエスは、「だから、こう祈りなさい。…」とおっしゃいました。(マタイ6:9)

マタイ 6:10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。

ここが重要なカギです。イエスご自身も、裏切られた夜にゲツセマネの園で祈られた際、これを実践されました。

ルカ 22:42 「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。」

ここからわかるように、私たちも天の父に、みこころならば取りのけてください、与えてください、と何でも祈ればよいのです。ただし、イエスがなさったように、最後までちゃんと祈る必要があります。

「しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。」

神の「みこころ」がイエス自身の願いとセットのように登場するのにお気づきでしょうか。イエスがご自身の願いについてこのように祈られたのなら、この模範に倣うべきだと思いませんか。

このパターンに則った祈りは、私たちが焦点ではないことを思い出させてくれるでしょう。祈りの焦点は神なのです。ヤコブはこのことについて注意を促すよう神に強く示されたようです。

ヤコブ 4:3 願っても受けられないのは、自分の快樂のために使おうとして、悪い動機で願うからです。
ヤコブ 4:4 貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。

聖書では、教会はキリストの花嫁と呼ばれます。「貞操のない」とは姦淫と同じで、他人との性的関係によって結婚の誓約を破る罪を指します。旧約聖書では、神の民であるイスラエルの民が他の神々を慕うことを指してたびたび使われました。つまり、私たちが世を愛して友となることは靈的な姦淫だとヤコブは言っているのです。

ヤコブ 4:4b 世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。

「敵すること」とは非常な憎悪を意味します。
ヨハネもこのように警告します。

1ヨハネ 2:15 世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。

1ヨハネ 2:16 すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。

これについては聖書のたくさんの個所で語られていますが、短く言うと、この世は神ではなく人を中心におきます。私たちは善なる神に喜んでいただく生き方をしていますか。それとも、自分自身の楽しみのために生きていますか。

私たちはこの世を愛するか、神を愛するかのどちらかです。両方を愛することは、霊的な姦淫を犯すことです。

ヤコブ 4:5 それとも、「神は、私たちのうちに住ませた御霊を、ねたむほどに慕っておられる」という聖書のことばが、無意味だと思うのですか。

私たち信徒の内に住まわれる聖霊が、この世やこの世のものに心を捧げている私たちを見ると、妬まれます。

ヤコブ 4:6a しかし、神は、さらに豊かな恵みを与えてくださいます。

私たちが罪を犯しても、この世のものを何度も追い求めても「神は、さらに豊かな恵みを与えてくださいます。」

恵みは、正義やあわれみとはずいぶん違います。

ヤコブの言葉をしっかり味わうには、その違いを知る必要があります。

正義は、私たちが受けるにふさわしいものを得ることです。

罪人である私たちはこれを受けるとたいへんなことになります。

あわれみは、私たちが受けるにふさわしい悪いことを免れることです。

恵みは、私たちが受けるに値しない良いものをいただくことです。

ヤコブ 4:6b ですから、こう言われています。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」

罪の中でも致命的なのが誇り高ぶりです。なぜでしょう。罪を認め、永遠の命を得るために自力では何もできないと認めるのは、プライドの高い人には一番難しいことだからです。これは誰もが苦手とすることです。

例えば

自分の過ちを認めるのが好きだという人はいますか。

自分の過去の失敗について人に話すのが好きだという人はいますか。

どうしてでしょう。なぜなかなかそうできないのでしょうか。罪の性質の中にプライドがしっかりと居座っているからです。

ヤコブ 4:7 ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。

自己中心な誇りを捨てて、神に従わなければなりません。それは、罪を告白し、過ちを認めることから始まります。人生も望みや願いも神のみに明け渡しましょう。悪魔とそのまやかしに立ち向かいましょう。そうすれば悪魔が逃げ去るとわかっているからです。これはみことばの約束です。

しかし、この正反対のことを私たちはやってしまうことがあります。悪魔に従い、神に立ち向かうのです。それなのに、なぜ悪魔が逃げ去らないのかと不思議に思います。

サタンからいつも誘惑や攻撃を受けていると言うことは、言いかえれば、なかなか神に従って悪魔に立ち向かえないということなのです。というのも、本当に神に従って悪魔に立ち向かっているなら、「悪魔は逃げ去る」からです。

イエスが悪魔に立ち向かって、神に従われたとき、悪魔が逃げ去ったのと同じことです。

ルカ 4:13 誘惑の手を尽くしたあとで、悪魔はしばらくの間イエスから離れた。

もちろん、しばらくするとまた悪魔は戻ってきます。それは確かなことです。サタンは私たちの弱点を知っており、つけ入る隙あらば必ず攻撃してきます。だからこそ、ヤコブはこう励ましています。

ヤコブ 4:7 ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。

ヤコブ 4:8a 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。

なんとすばらしい約束でしょう。

モーセが申命記でイスラエルの民に語ったのと同じです。

申命記 4:29 そこから、あなたがたは、あなたの神、【主】を慕い求め、主に会う。あなたが、心を尽くし、精神を尽くして切に求めるようになるからである。

神が預言者エレミヤを通して語られたのと同じです。

Jeremiah 29:13 “And you will seek Me and find Me, when you search for Me with all your heart.”

エレミヤ 29:13 もし、あなたがたが心を尽くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを見つけるだろう。

これは約束です。

ヤコブ 4:8 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪ある人たち。手を洗いきよめなさい。二心の人たち。心を清くしなさい。

どうすればそうできるのでしょうか。預言者イザヤをとおして神はこうおっしゃいました。

イザヤ 1:16 洗え。身をきよめよ。わたしの前で、あなたがたの悪を取り除け。悪事を働くのをやめよ。

悪事を働くのをやめよ。

ペテロはこう言いました。

使徒の働き 3:19 そういうわけですから、あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。

悔い改めなさい。回れ右をしなさい。

ヨハネはこう言いました。

ヨハネ第一 1:9 もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

言い表すのです。

悪事をやめ、主のほうに向かい、罪を言い表すのです。

そして、主が喜ばれないとわかっていることをしたり考えたりしている自分に気づいたら、どうすればよいでしょうか。

悪事をやめ、主のほうに向かい、罪を言い表すのです。

ヤコブ 4:9 あなたがたは、苦しみなさい。悲しみなさい。泣きなさい。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。

罪に陥った信徒が悔い改めなさいと呼ばれる神に応えるとき、笑いや喜びはいったん脇において、心から悲しんで自分の罪を振り返るべきです。

罪を犯しておもしろおかしいことはなにもありません。私たちの罪のためにイエスが払ってくださった犠牲を思い出す必要があります。そのおかげで私たちは赦されたのです。

そういう認識が私たちを悲しませ、悲しみが悔い改めへ、悔い改めが赦しへ、赦しが真の喜びへと導いてくれます。

こういうわけで

James 4:10 Humble yourselves in the sight of the Lord, and He will lift you up.

ヤコブ 4:10 主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます。

誇りにも不信仰にも、どんな人や物にもこれを邪魔させてはいけません。主は私たちが高めたいと望んでおられます。そして、私たちが主の前にへりくだるなら、そのとおりにしてくださいます。

ヤコブ 4:11 兄弟たち。互いに悪口を言い合ってははいけません。自分の兄弟の悪口を言い、自分の兄弟をさばく者は、律法の悪口を言い、律法をさばいているのです。あなたが、もし律法をさばくなら、律法を守る者ではなくて、さばく者です。

ここでヤコブはどの律法のことを指して言っているのでしょうか。それは愛の律法です。

ガラテヤ 5:14 律法の全体は、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」という一語をもって全うされるのです。

聖書には、この原則を実生活にあてはめる方法がたくさん書かれています。「互いに」と書かれた個所は新約聖書のあちらこちらにあります。

互いに愛し合いなさい - ヨハネ 13:34 & ヨハネ 15:12,17.

互いに赦し合いなさい - エペソ 4:32 & コロサイ 3:13.

互いに仕えなさい - ガラテヤ 5:13.

互いにもてなし合いなさい - ペテロ第一 4:7-10.

互いのために祈りなさい - ヤコブ 5:16.

互いに徳を高め合いなさい - ローマ 14:19, テサロニケ第一 5:11.

互いにあいさつをかわしなさい - ローマ 16:16, ペテロ第一 5:14.

互いに忍び合いなさい - エペソ 4:1-2 & コロサイ 3:13-14.

互いにいたわり合いなさい - コリント第一 12:25-26.

互いに受け入れなさい - ローマ 15:7.

互いに教えなさい - コロサイ 3:16.

互いに戒めなさい - ローマ 15:14 & コロサイ 3:16.

互いに従いなさい - エペソ 5:21-22.

互いに罪を言い表しなさい - ヤコブ 5:16.

互いに親切にしなさい - エペソ 4:32.

互いに慰め合いなさい - テサロニケ第一 4:18, 5:11.

互いに偽りを言っははいけません - コロサイ 3:9.

互いにさばき合っははいけません - ローマ 14:13.

互いに悪口を言い合っははいけません - ヤコブ 4:11.

互いにつぶやき合っははいけません - ヤコブ 5:9.

互いにかみ合ったり、食い合ったりしてははいけません - ガラテヤ 5:15.

互いにいどみ合ったり、そねみ合ったりしてははいけません - ガラテヤ 5:26.

これはほんの一例です。

愛の律法をさばく者ではなく、守る者になりましょう。なぜなら、

ヤコブ 4:12 律法を定め、さばきを行う方は、ただひとりであり、その方は救うことも滅ぼすこともできます。隣人をさばくあなたは、いったい何者ですか。

つまり、ヤコブはこう言っているのです。「自分でどうしようもないことを悩まなくてもよい」人の言動を変えることはできません。しかし、自分自身の言動を変えることはできます。

だから、できることだけすればよいのです。ただ人を愛し、その人たちをさばくのは神に任せましょう。ただそれだけです。

ヤコブ 4:13 聞きなさい。「きょうか、あす、これこれの町に行き、そこに一年いて、商売をして、もうけよう」と言う人たち。

ヤコブ 4:14 あなたがたには、あすのことはわからないのです。あなたがたのいのちは、いったいどのようなものですか。あなたがたは、しばらくの間現れて、それから消えてしまう霧にすぎません。

ヤコブ 4:15 むしろ、あなたがたはこう言うべきです。「主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう。

ここでは、「神のみこころ」が祈りの中だけでなく将来計画においても重要であることがわかります。

箴言 16:9 人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、その人の歩みを確かなものにするのは【主】である。

ヨハネ 3:8 風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」

私は主の風に乗る羽根になりたいです。つまり、聖霊の導きを敏感に感じたいということです。主が私のためにせっかく備えてくださったものを、不安や不信仰によって逃したくありません。

1コリント 2:9 まさしく、聖書に書いてあるとおりです。「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。」

ですから、祈りの中でも、将来計画においても、「主のみこころなら、そのとおりになさってください」という姿勢でいましょう。

ヤコブ 4:16 ところがこのとおり、あなたがたはむなしい誇りをもって高ぶっています。そのような高ぶりは、すべて悪いことです。

私たちが神から独立して生きたり動いたりできるとどうして思うのでしょうか。それこそ、むなしい誇りをもって高ぶっていることではないでしょうか。この次の瞬間生きている保障のある人はいますか。誰もいません。私たちの命は、今日はあっても明日には消える霧のようなものです。

神から離れ、神のみこころに反し、自分を誇りに生きることは、高ぶっているだけでなく、悪いことだとヤコブは言います。

ヤコブ 4:17 こういうわけで、なすべき正しいことを知っていながら行わないなら、それはその人の罪です。

聖書には、二種類の罪が語られています。

#1: 犯す罪：私たちが犯す、または行う罪

そして、

#2: 怠る罪：私たちが怠る、または行わない罪

つまり、すべきでないわかっていることをする（犯す罪）だけが罪ではありません。

すべきだとわかっているのにしない（怠る罪）のも罪です。

ヤコブは、主によって心に示されたすべてのことを伝え、そのうえで、この厳しい真理を読み手に改めて伝えます。知らなかったとはもう言えないというわけです。多く任された者は多く要求されます。

イエスがおっしゃったとおりです。

ヨハネ 13:17 あなたがたがこれらのことを知っているのなら、それを行うときに、あなたがたは祝福されるのです。

主が私たちに命じられたことを行うなら、なんと幸せなことでしょう。

しかし、逆も真なりです。

主が私たちに命じられたことを行わないなら、なんと悲しいことでしょう。